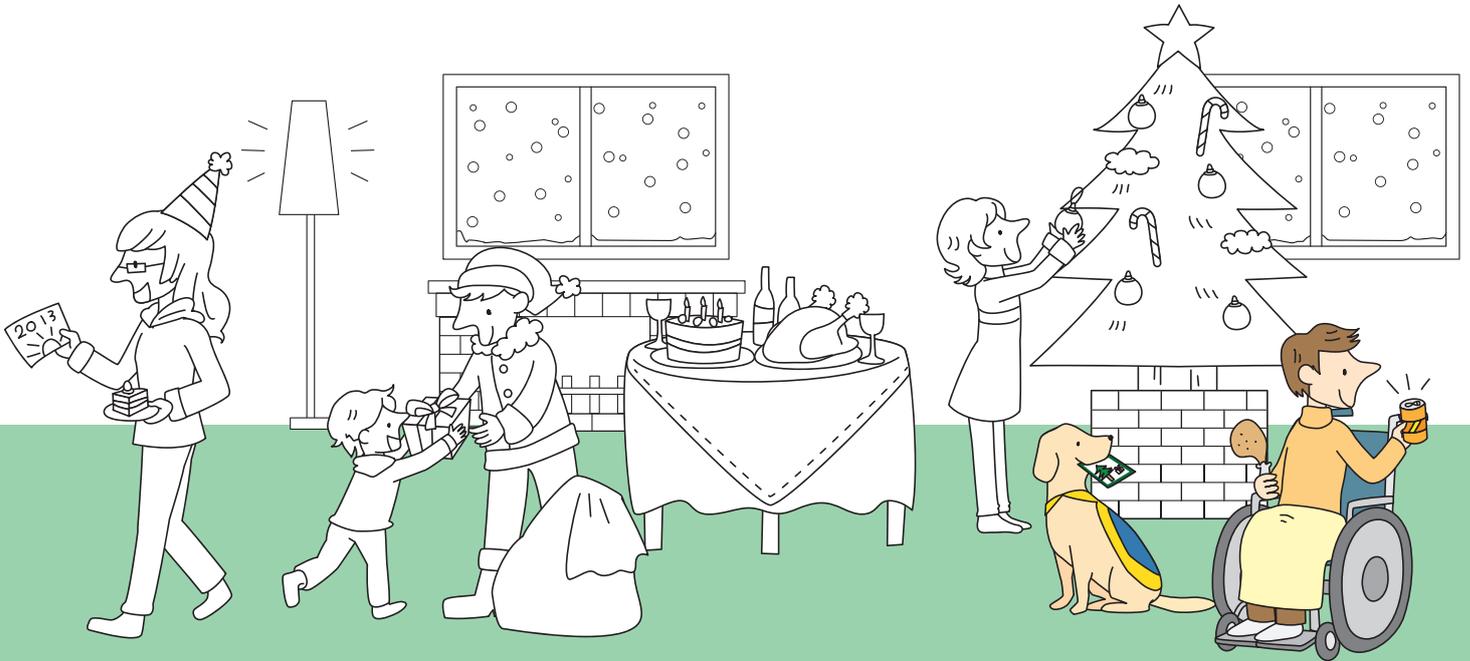


きずな

2012年
(平成24年)

12



12月3日

国際障害者デー

1982(昭和57)年12月3日、国連総会で「障害者に関する世界行動計画」が採択されたことを記念し、1992(平成4)年に制定されました。国連は加盟国に対して障害のある人の社会参加の一層の促進を呼び掛けており、日本では同日から12月9日までを「障害者週間」としています。

特集テーマ 障害のある人 みんな いきいき

- ② 第24回全国車いすマラソン大会
(篠山市)
- ③ みんなが
地域で安心・安全・豊かに暮らせる社会
植戸貴子さん(神戸女子大学健康福祉学部教授)
- ④ 高校と特別支援学校の生徒が
共に学び交流を深める
県立阪神昆陽高等学校・県立阪神昆陽特別支援学校

- ⑤ 障害のある人たちが働く評判のうどん店
淡路市社会福祉協議会 就労移行支援事業所
「さめきうどん幸来(はびくる)」
この人に聞く!
- ⑥ 身体障害者補助犬のさらなる普及に向けて
木村佳友さん(日本介助犬使用者の会会長)
- ⑦ ふれあいサロン
- ⑧ 情報ぷらざ



障害の有無にかかわらず、誰もが地域の一員として共に支え合う社会づくりが進められています。しかし、障害のある人への理解不足などが原因となって生じる偏見や差別意識も残っています。全ての人々が活躍し、自分らしく生き生きと暮らせる社会づくりに向けて、一人ひとりに何ができるかを考えてみましょう。

第24回全国車いすマラソン大会 (篠山市)

9月30日、城下町篠山を舞台に開かれた「第24回全国車いすマラソン大会」。全国から集まった車いすランナー90人（男子84人、女子6人）はフルマラソンの部とハーフマラソンの部に分かれ

て、日頃の練習の成果を競いました。当日は台風の接近による雨模様でしたが、沿道から多くの地元住民が拍手を送り、ボランティアが給水や安全確保などに活躍し大会を支えました。



多くの中高生たちがボランティアとして参加。レースが円滑に進むよう入念に打ち合わせをします

スタートの合図とともに一斉に飛び出すランナーたち



住民たちは傘を差して声援を送りました



ランナーたちは市街地を抜けて田園地帯へ



どんなに苦しくてもゴールを目指して力走します



ゴールしたずぶ濡れのランナーにボランティアがタオルを掛けます



メッセージ

みんなが 地域で安心・安全・豊かに 暮らせる社会

うえと 植戸 たかこ 貴子さん(神戸女子大学健康福祉学部教授)

**障害のある人の
いのち・暮らし・尊厳を
守るために**

最近、地域で十分な支援を得られずに行き詰まっている障害のある人と家族の存在が、改めて認識されるようになっていきます。障害のある人のための制度やサービスが整ってきた今日でも、それが有効に利用されず、地域から孤立している家庭もあるようです。最悪の場合、それが家族による虐待や、障害のある人と家族の孤立死につながってしまっています。そのような中、今年10月から障害者虐待防止法が施行され、障害者に対する虐待を防止し、本人はもちろん、ケアする家族に対しても必要な支援をしていく仕組みがスタートしました。

また、障害のある人や家族を、住民、行政、医療・保健・福祉・教育の関係者、ボランティアなどで支える自立支援協議会の取り組みも広がっています。障害のある人のいのち・暮らし・尊厳を守るこの大切さを再認識し、実践していく時に来ています。

**地域で安心・安全・豊かに
暮らすこと**

昔は、「障害のある人は親がケアをし、親亡き後は施設に入る」という考え方が

強かったのですが、今は、「障害のある人も地域で暮らす」という動きが進んでいます。

しかし、住民の中には、障害のある人を「何をするか分からない」「できる限り関わりたくない」という目で見られる人もいます。そのような中、「障害のあるわが子が地域で安心して暮らし続けられるように、地域の人たちにわが子のことを知ってもらおう。自分たちも地域に貢献し、支え合って暮らせる地域を自分たちで作ろう」と、地域活動を続けている親の団体があります。

近隣や学校などでいじめや嫌がらせなどを受けた経験から、親は「子どもを連れて地域に出て行くには勇気がいりました」とおっしゃいます。「障害のある人は怖い」と排除する人たちを、障害のある人や家族は「怖い」と感じているのです。しかし、思い切って子どもを連れて地域の活動に参加し、継続的にふれあうことで、住民は「障害のある人は私たちと何ら変わらない」と気づくようになり、本人や家族も「地域には親切で、私たちの状況を正しく理解している人も大勢いる」と思えるようになったと言います。障害のある人となない人が、普段の生活の中で自然に関わりあうことの大切さに気づかれます。

**全ての人が
生き生きと暮らせる社会を**



「国連障害者の権利条約」は「障害者が地域社会で生活することは権利である」としています。

地域生活を能力の問題ととらえて「できない障害者に地域生活は無理」とするのではなく、全ての人が互いの人権を尊重し合い「必要な支援や工夫をしよう」という地域社会を、私たちの手でつくっていくことが求められていると思います。

※日本は2007(平成19)年に同条約に署名し、現在、国内法を整備し早期批准をめざしています

プロフィール

神戸大学教育学部特殊教育科卒業。米国ニューヨーク州立大学オールバニー校大学院社会福祉修士課程修了。社会福祉士、精神保健福祉士。高齢者や障害者の施設でソーシャルワーカーとして勤務。現在、神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科教授。専門は障害者ソーシャルワーク、特に知的障害者の地域生活支援を研究中。

高校と特別支援学校の生徒が 共に学び交流を深める

県立阪神昆陽高等学校・県立阪神昆陽特別支援学校



校章は阪神と昆陽の頭文字を中心に、両校の生徒が豊かな人間性を育み成長していくことをイメージして作られました

ノーマライゼーションの理念

障害のある人となない人が互いに区別されることなく、尊重し合いながら社会生活を送るべきであるという「ノーマライゼーション」の考えの下、2012（平成24）年4月、伊丹市の同じ敷地内に県立阪神昆陽高校と県立阪神昆陽特別支援学校が新設されました。阪神昆陽高校は午前、午後、夜間の3部から成る単位制。阪神昆陽特別支援学校は3年制の職業科を設け、知的障害のある生徒の自立を支援しています。両校の生徒は音楽や体育、美術、情報の授業と一緒に受けるほか、昼休みに昼食を共にするなど積極的に交流を深めています。

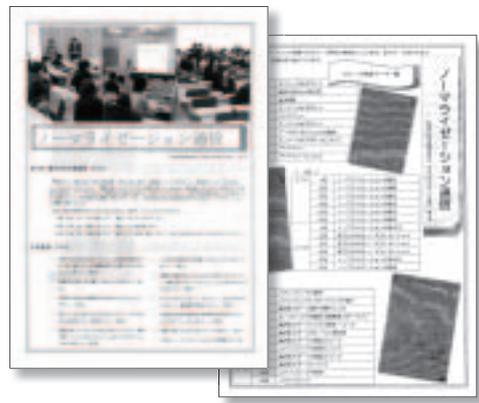
5月の体育祭は高校の1部、2部、3部、特別支援学校の対抗戦で開催。綱引きでは特別支援学校の生徒が負けそうになった時、高校の生徒が加勢する光景が見られました。特別支援学校副校長と高校教頭を兼任する大西繁樹さんは「小中学校には特別支援学級があるので、高校の生徒にとって身近に障害のある生徒がいるのは当たり前のことです。入学後、相手を思いやる気持ちは一層深いものになったと感じます」と話します。



両校の生徒は体育や情報などの授業、学校行事で交流し、共に学んでいます

高校では障害への理解を深める授業も

阪神昆陽高校では、生徒が障害のある人に対する理解を深め、知識を身に付けるために学校設定科目「ノーマライゼーション」を設けています。大学教員や特別支援学校教員らを招いて、障害の特性、手話や点字などを学んでいます。毎月校内で配布している「ノーマライゼーション通信」には、「障害のある人と長く付き合っていくことで壁を取り除くことができるって、すごく素晴らしいこと。私もたくさん付き合っていきたいと思う」といった生徒たちの授業を受けた感想が載っています。



月1回配布している「ノーマライゼーション通信」は、ノーマライゼーションの授業内容やグループ別研究発表、生徒の感想などを掲載しています

じんけん情報 1

発達障害のある子どもを支援する「県立こども発達支援センター」を開設

発達障害の早期発見と発達障害のある子どもへの支援を行う「県立こども発達支援センター」が、今年7月から診療を始めました。乳幼児からおおむね15歳までの発達障害やその疑いのある子どもを対象に、小児科医師による診断・診療から療育までを一体的に提供します（事前に市町を通して利用申請が必要です）。

問 兵庫県立こども発達支援センター
明石市魚住町清水2744（県立清水が丘学園に併設）
TEL 078(949)0902(代) FAX 078(943)3830

兵庫県立こども発達支援センター





障害のある人たちが働く 評判のうどん店

淡路市社会福祉協議会 就労移行支援事業所
「さぬきうどん 幸来」^{はびくる}

仕事を通して日々成長

2011（平成23）年7月、淡路市社会福祉協議会の就労移行支援事業所としてオープンした「さぬきうどん 幸来」では、障害のある人が麺打ちや接客などを通して職業訓練を行っています。メンバーは就職先を見つけるまで最長3年間、訓練を受けられます。

「うどん屋はうどんで勝負！」と添加物を一切使わない本格的な手打ちうどんは瞬く間に評判となり、連日、遠方からも多くの客が訪れます。調理場はガラス張りになっており、麺打ちなどの作業の様子が見られます。「お客様の目を意識することで、仕事への使命感はよ



麺打ちもすっかり手慣れたもの



そろいのエプロンを着けて客を出迎えます



看板とのれんを出して開店の準備を進めます



さぬきうどん 幸来
淡路市大谷 176-1
11:00～17:00（日曜休）
TEL/FAX 0799 (70) 1546

うどん店の経験を次のステップに

毎日、メンバーは生き生きと働いています。毎日が「幸来」はあくまでも就労に向けてのステップの場です。

り強くなります。また、常連さんの中には彼らの成長を見守ってくれている人もいて、励ましの声を掛けてくれます」と語るのは、同社協の福祉専門員で開店準備から関わっている風保憲さん。
現在のメンバーは7人。接客を担当する森りかさんは「立ち仕事でしんどい時もありますが、お客様と接することが楽しく、やりがいがあります」と目を輝かせます。

「調理や接客の経験を生かせる仕事に就くことができれば」と風さん。
「例えば、高齢者向けの給食作りやその宅配、地域で定期的に開催する食堂など、彼らだからこそその活躍の場を開拓していきたいです」と続けます。
「幸来」の店名には、店に関わる全ての人に幸せが来るようにとの願いが込められています。メンバーたちが作る自慢のうどんは客を幸せにし、客からの「おいしかった！」の言葉で彼らは自身の幸せに一歩近づいていきます。



名物メニューのえびとりぶっかけ（410円）。大きなえび天とさっくり揚がった鶏もも肉はコシのある麺との相性もバッチリ

じんけん情報 2

障害のある方などのための駐車スペースの適正利用に向けて 兵庫ゆずりあい駐車場制度

兵庫県は、障害のある方や難病患者、高齢者、妊産婦、傷病人などで歩行が困難な方を対象に利用証を交付しています。この利用証を提示して、県内の駐車施設で「兵庫ゆずりあい駐車場」の標示のある駐車スペースを利用することができます。利用証の申し込み、兵庫ゆずりあい駐車場の対象施設などについての問い合わせは県のホームページまたは県障害者支援課へ。

問 県障害者支援課 TEL 078(362)4379





身体障害者補助犬のさらなる普及に向けて 木村佳友さん（日本介助犬使用者の会会長）

障害のある人にとって
心強いパートナー



盲導犬や聴導犬、介助犬など、障害のある人の不自由な生活を補助する犬を身体障害者補助犬といえます。

2002（平成14）年10月に施行された「身体障害者補助犬法」によって、公共施設や交通機関はもとより、民間の商業施設などでも補助犬の同伴が認められ、補助犬の利用者はより積極的に社会参加できるようになりました。

宝塚市に住む木村佳友さんは交通事故で頸髄を損傷し、下半身まひと手先の自由が利かないなどの障害を負ったことで、16年前から介助犬の力を借りています。2001（平成13）年には日本介助犬使用者の会を立ち上げ、介助犬の利用者同士の交流を図るとともに、介助犬の啓発に取り組んでいます。補助犬は、使用者の体の一部になって日常生活をサポートするという大切な役割を担っています。それだけに補助犬の行動や健康、衛生などに細心の注意を払わなければなりません。木村さんのもとには介助犬の利用に関する相談が寄せられますが、管理方法や経済的な負担などに不安を感じて利用を諦める人も多いそうです。

「現在、国内には約1150頭の補

助犬が活躍しています。障害のある人が自由に補助犬と社会参加ができるように、関係機関やボランティアが連携し、補助犬の普及促進に向けて育成や研究を進めてほしいと願っています」

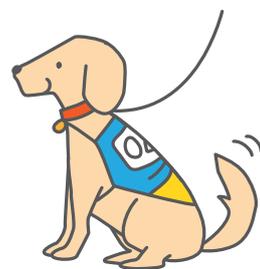


木村さんにとって2代目の介助犬「エルモ」。指示に従い新聞を取って渡します

補助犬への理解を
広めるために奔走



身体障害者補助犬法の施行から10年がたちましたが、「以前は補助犬を同伴できた店で突然、入店を拒否される



ことがあり、普及啓発の難しさを痛感します」と言います。最近、ある大学教授による調査で「身体障害者補助犬法について知らない人が増えている」という結果が報告されたように、それは障害のある人に補助犬がどれほど必要存在なのか、社会に十分に浸透していない表れなのかもしれません。木村さんは障害のある人と補助犬を取り巻く現状を伝えようと、介助犬エルモと共に講演やイベントに出向いています。多くの人に補助犬に直接触れてもらい、補助犬に対する理解を呼び掛けています。

- 政府インターネットテレビで身体障害者補助犬を紹介しています
<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg6301.html>
- 木村さんのホームページではエルモとの毎日をつづったブログや日本介助犬使用者の会の活動などを見られます
<http://homepage3.nifty.com/cynthia/>

自分をえらんで
生まれてきたよ
いんやりお著サンマーク出版



「まず、ファイブブライー
おすすめの一冊」

「心臓と肺に疾患を持って生まれてきたりお（理生）君は、これまで入院を30回以上繰り返ししています。本書は彼が9歳になるまでに、お母さんと周囲に語った不思議な話をまとめたものです。」

「ほくは、自分が大好きだ。自分の体が、大好きだ。自分の体、ありがとう。」の一文からは、病気を受け入れて懸命に生きようとするりお君の勇気が伝わってきます。

締めくくりに掲載されたお母さんの詩「ありがとがいっぱい」は大切な息子への感謝の言葉であり、また、全ての命に対するエールのようにも感じられます。



読者からのお便り

●10月号の高橋貞夫さんの寄稿にあった「何気ない気づきを大切に」という小見出しが印象に残りました。人権というと硬く聞こえるかもしれませんが、純粋に相手を「思いやる」ことだと感じました。自分の気持ちを言葉にできる子どもたちばかりではないので、言葉の裏に隠されている気持ちや表情などのサインに敏感にならないといけないと日々実感しています。周りの人との関わりを大切に生活していきたいです。

(もんたろうさん)

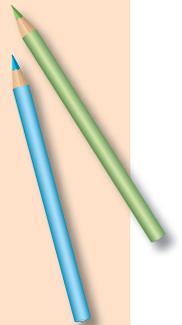
●自分を取り巻くさまざまな環境をバランス良く取り込み、生活していくことはとても大切なことです。仕事や家事など方法に工夫が必要かなと考えています。

(豊岡市・土井光美さん)

「きずな」のバックナンバーは、当協会または各市町の人権啓発担当部署にお尋ねください。



クロスワードを解いて、A~Iの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？



カタテの

- 1 今年開かれたスポーツの祭典。ゴールボールで日本女子が金メダルを獲得するなど、多くの感動が記憶に新しいです
- 2 見せかけの様子。「○○の良い逃げ口上」
- 3 快適な社会生活のために不可欠な○○○フリー
- 4 大きな声で励ますこと。「○○○激励」
- 5 介護の必要な人を昼間のみ施設で預かり日常生活の世話をすること
- 8 心を合わせて何かを一緒にするという間柄にある人
- 11 物おじせずに立ち向かう気力。「○○○百倍」
- 12 おばあちゃんの○○袋
- 13 遠くの親類より近くの○○○
- 15 亀の○○より年の○○

ヨコの

- 1 朝食はご飯?それとも○○?
- 2 感情などを抑えないで表すこと。「○○○○の喜びよう」
- 5 出ることと入ること。「人の○○○が多い家」
- 6 相手の立場や気持ちがよく分かること
- 7 山の○○○の空遠く幸い住むと人の言う
- 9 転んで○○などしないよう気を付けて
- 10 混じり気がなく純粋なこと
- 12 世の中。「不況の風が○○○に吹く」
- 14 一つの道について細部まで詳しく知っている人
- 15 社会のリーダーは弱者の○○に耳を傾ける人であってほしい
- 16 苦しい立場や境遇
- 17 異常な出来事や社会的な事件。「本能寺の○○」

〈10月号の答え〉ワークライフバランス

お便り掲載者 クロスワード正解者(抽選)

オリジナルコンパクト時計をプレゼント!

「読者からのお便り」の投稿掲載者(2月号に掲載)とクロスワードの正解者(抽選で20人)にオリジナルコンパクト時計をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々とのふれあいを通じた心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。*投稿はペンネームの使用も可能です *当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます



■応募方法・締め切り

はがきかファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用する場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を書いてください。1月15日(火)締め切り(必着)

■応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会「きずな編集室」

TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp

情報ぷらざ

のじぎく文芸賞の入賞者が決定

平成24(2012)年度ののじぎく文芸賞には1,275点(一般の部170点、学齢児童生徒の部1,105点)の応募がありました。いずれ劣らぬ力作ぞろいでしたが、下記の通り入賞者が決定しました。

賞名	部門	部	作者名(敬称略)	作品名
最優秀賞	小説	一般	晴 太郎	みんな違う
	随想	一般	塚口佳子	消えない虹を、心に抱いて
	詩	一般	坂本ユミ子	電車の中で
	創作童話	一般	齋藤 尊	魔法のこぼ
優秀賞	小説	一般	高木浩志	緑の帽子のおっちゃん
		学齢	森本菜奈絵	君がいたから
	随想	一般	小野まゆみ	ここに いるよ
		学齢	谷垣裕香	おかえり
	詩	一般	蔭谷千春	帰省
		学齢	村岡美美	言葉といのち
	創作童話	一般	池田勝則	花は咲く
		学齢	清水あかり	ユキのどんぐり

※学齢=学齢児童生徒

毎年12月3日～9日は「障害者週間」です

「障害者週間」は、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として設定されています。

▶詳しくは内閣府ホームページへ [障害者週間](#) [内閣府](#) [検索](#)

ハーフタイム

今年にはロンドンでオリンピックとパラリンピックが開かれ、兵庫県ゆかりの選手たちも活躍しました。競技後のインタビューを見ていて気付いたのが、どの選手も家族やコーチなど自分を支えてくれた人々への感謝の気持ちを真っ先に口にしていたことでした。一つのことには打ち込み、成果が出るようになるにはとてつもない努力が必要です。世界の大舞台でひたむきに頑張る姿を私たちにを見せてくれたことに感謝したいです。(田中)

イベントガイド

毎年12月4日～10日は「人権週間」です

神河町人権・青少年健全育成合同大会	<ul style="list-style-type: none"> ●日時/12月1日(土)8:45～12:00 ●場所/神河町中央公民館グリンデルホール ※JR「寺前」駅から徒歩約5分 ●内容/人権ポスター・標語・写真の展示と表彰、子どもたちの主張、講演「あーよかったな あなたがいて～『優しさ』という温かい貯金～」仲島正教さん(教育サポーター) ※手話通訳あり ●問い合わせ/神河町教育課 TEL 0790(34)0212
播磨町こころふれあう町民のつどい「ヒューマン・ライツ コンサート」	<ul style="list-style-type: none"> ●日時/12月2日(日)13:30～ ※申し込み不要 ●場所/播磨町中央公民館大ホール ※山陽電鉄「播磨町」駅から徒歩約3分 ●内容/全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会加古川・高砂・稲美・播磨地区予選表彰式、「ヒューマン・ライツ コンサート～音楽に込められた人々の想いと願い～」演奏:アンサンブル・サビーナ、解説:松本城洲夫さん ●問い合わせ/播磨町教育委員会生涯学習グループ TEL 079(435)0565
兵庫県人権擁護委員連合会 第32回全国中学生人権作文コンテスト 兵庫県大会表彰式、講演会	<ul style="list-style-type: none"> ●日時/12月8日(土)13:00～15:20 ●場所/兵庫県民会館11階パルテホール(神戸市中央区) ※神戸市営地下鉄「県庁前」駅すぐ ●内容/全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会の表彰式と最優秀賞受賞者による朗読、講演「話し言葉と書き言葉」三上公也さん(ラジオ関西パーソナリティ) ●問い合わせ/神戸地方法務局人権擁護課 TEL 078(392)1821
香美町人権講演会	<ul style="list-style-type: none"> ●日時/12月9日(日)13:30～15:30 ※申し込み不要 ●場所/香住区中央公民館文化ホール ※JR「香住」駅から町民バス「文化会館前」すぐ ●演題・講師/「人権は人を思いやる心から始まる～なにげない言葉が人を追いつめてしまう～」山本健治さん(フリーライター) ●問い合わせ/香美町町民課 TEL 0796(36)1110
兵庫県特別支援教育振興会 設立40周年記念事業	<ul style="list-style-type: none"> ●日時/12月13日(木)13:00～17:00 ※定員500人、入場無料、要申し込み(先着) ●場所/神戸朝日ホール ※JR・阪神「元町」駅から徒歩約5分 ●内容/記念演奏会:前川裕美さん(ピアニスト)、現状報告:藤本裕人さん(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)、記念講演:藤原正彦さん(お茶の水女子大学名誉教授) ●問い合わせ/兵庫県特別支援教育振興会事務局 TEL 078(222)3604